

2020年12月6日（日）待降節第2主日

銀座教会 主日家庭礼拝

礼拝招詞「城門よ、頭を上げよ とこしえの門よ、身を起こせ。栄光に輝く王が来られる。栄光に輝く王とは誰か。万軍の主、主こそ栄光に輝く王。」

詩編24編9～10節

主の祈り

使徒信条 我は天地の造り主、全能の父なる神を信ず。我はその独り子、我らの主、イエス・キリストを信ず。主は聖霊によりてやどり、処女(おとめ)マリヤより生れ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死にて葬られ、陰府にくだり、三日目に死人のうちよりよみがえり、天に昇り、全能の父なる神の右に座したまえり、かしこより来たりて、生ける者と死ねる者とを審きたまわん。我は聖霊を信ず、聖なる共同の教会、聖徒の交わり、罪の赦し、身体のよみがえり、永遠の生命を信ず。 アーメン。

讃美歌 95番 わが心は あまつ神を

聖書 マタイによる福音書1章18～25a節

18 イエス・キリストの誕生の次第は次のようであった。母マリアはヨセフと婚約していたが、二人が一緒になる前に、聖霊によって身ごもっていることが明らかになった。19 夫ヨセフは正しい人であったので、マリアのことを表ざたにするのを望まず、ひそかに縁を切ろうと決心した。20 このように考えていると、主の天使が夢に現れて言った。「ダビデの子ヨセフ、恐れず妻マリアを迎え入れなさい。マリアの胎の子は聖霊によって宿ったのである。21 マリアは男の子を産む。その子をイエスと名付けなさい。この子は自分の民を罪から救うからである。」22 このすべてのことが起こったのは、主が預言者を通して言われていたことが実現するためであった。23 「見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」この名は、「神は我々と共におられる」という意味である。24 ヨセフは眠りから覚めると、主の天使が命じたとおりに、妻を迎え入れ、25 男の子が生まれるまでマリアと関係することはなかった。

牧会祈禱

天の父なる神さま。先週一週間、待降節の日々をお守りくださり感謝いたします。今年、心に特別な祈りを与えられて、救い主を待ち望んでいます。地上の闇に真の光をお与えください。あなたがこの地上に御子を遣わす愛の決断を感謝し、主の憐れみの中で一日一日前進します。世界の平和を求めます。全国の諸教会のクリスマスへの歩みが顧みられ、あなたの光を輝かせる教会としてください。

重い病の中にある方々、不安の中におられる方々、孤独の中におられる方々にあな

たの光を届けることができますように私たちをお用いください。

今週、真の救い主をお迎えする備えの祈りをお導きください。神を愛し隣人を愛する道を歩ませて下さい。医療従事者の健康と使命が支えられますように、主の守りの中、歩めますように、主イエス・キリストの御名によって祈ります。 アーメン

説教 「キリストの誕生の次第」

牧師 高橋 潤

ヨセフは、「ひそかに縁を切ろうと決心」したと記されています。婚約者であるマリアが、自分以外の人の間で身ごもったことが明らかになったからです。しかし、自分以外の誰なのか分かりません。天使の言葉で、その相手はその辺の男ではなく聖霊なる神であると知らされました。もし、マリアと関係を持った男が誰であるのか特定できれば、申命記 22 章に基づいて裁くことが求められます。現行犯の場合は男女とも死刑となります。しかし、マリアの相手が誰なのか分からない中で、マリアは聖霊なる神によって身重になったというのです。聖霊なる神を信じるのか、天使の声を疑うか判断できないのです。そのような場合、申命記 24 章によって記されていることが思い出されたでしょう。すなわち、「妻に何か恥ずべき事を見だし、気に入らなくなったときは、離縁状を書いて家を去らせる」という律法に照らした判断にたどり着いたのでした。ですから、マリアの相手が誰であるのか判明しない限りはマリアの処刑はあり得ないのです。マリア一人だけが石打の刑に処せられる心配もないのです。どんなにヨセフが訴えようともマリア一人だけを裁きの場に突き出すことは、申命記の律法では不可能です。ヨセフがこの時点で律法に従って判断できる道の一つは、申命記 24 章の離縁状を書いて手渡し、縁を切ることでした。それが、にわかに聖霊を信じることのできない「正しいヨセフ」が思いついたことでした。この事によって、イスラエルから悪を取り除く律法に従う事ができると考えました。

「ヨセフの正しさ」とは、当時の律法に従う正しさです。しかし、この正しさは、ヨセフ自身を正当化するだけであり、同時にマリアを批判し続けることになります。この正しさにはマリアを救う力はなく、二人の関係は崩れていくしかないのです。これがヨセフが真剣に考えた「正しさ」です。誠実な婚約者が考え得る限界、人間の正しさの限界がここに見えると思います。

婚約者マリアとの関係破談を決意させた「正しいヨセフ」に、主の天使の言葉が与えられました。「主の天使が夢に現れて言った。「ダビデの子ヨセフ、恐れず妻マリアを迎え入れなさい。マリアの胎の子は聖霊によって宿ったのである。」この天使の言葉は、夢の中で天使を通して語られた神の言葉です。この神の言葉をヨセフは、どのように聞き取ったのでしょうか。夢からさめたヨセフは神の律法ではなく、律法の源である神の言葉に従ったのです。律法による正しさから、神の言葉による正しさへと道が開かれました。

「聖霊によって身ごもった」という神の言葉は、マリアを救い出す以前に、ヨセフ自身の「正しさ」こそ、神に背を向けている罪であることを指摘しているのではないのでしょうか。ヨセフは、自分自身が神にしたがっているという思っていたが、実は神に背を向けていることに気付かされたのではないのでしょうか。

ヨセフが目覚めたのは、ヨセフあなたは「ダビデの子」であるという言葉です。律法に従っていれば後ろ指を指されないで生きられるという、消極的な正しさに生きていたヨセフが、あなたはダビデの子であることを思い起こし自覚しなさいと指摘されたのです。

ダビデの子とは、どのような意味があるのでしょうか。マリアに対して離縁状を渡すという道ではなく、別の道があることをヨセフに理解させる言葉になったのです。一つには、自分が離縁状を渡すことは、ダビデの子孫を途絶えさせることに繋がります。イスラエルの神の民の歴史に終止符を打つことになるのではないかという恐れが天使の語る、「ダビデの子」よという言葉から聞こえたのではないのでしょうか。イスラエルの神の民は、長い年月、ダビデ王の再来を待ち望んでいました。イスラエルの国を唯一、統一王国としたあのダビデを待ち望むことを希望に、苦しみに耐え抜いてきたのです。信仰に生きてきたのです。申命記の24章の律法に従う事ではなく、神の民が待望したダビデの子としての使命と召命を与えられたのでしょうか。これこそが神の律法に従う道ではないかと受け止め直したのではないのでしょうか。

救い主がお生まれになるということは、ユダヤの文化では、王家の血統に属することではなければなりません。父親の血筋がダビデに繋がっていないと認められないのです。マリアが気に入るか気に入らないかという判断で離縁状を渡すのか、神の救済の歴史に用いられるのがヨセフの判断の分かれ目であったのです。

当時の社会では、生まれる子どもを認知するのは、母親の証言より父親の証言の方が力がありました。父親は自分の身に覚えがなければ認知しないと考えられたからです。すなわち、イエスと名付けるということは、ヨセフが積極的にこの子は私の子であると人々に公表することになるのです。救い主の名付け親となる使命を与えられたのです。こうしてヨセフは律法に従って、主イエス・キリストをダビデの子として法律で認められた関係に加えることができたのです。同時に神のご計画からいうならば、神の子が律法によって正式に認知されることになったのです。ヨセフがイエスと名付けたということは、まさにクリスマス、救い主をお迎えし礼拝する事を指し示しているのです。

イエスと名付けたということは、もう一つ大切な意味があります。一般的にイエスという名は、どこにでもある名前と説明することがあります。しかし、特別な意味もこめられています。それは、ギリシャ語ではイエスですが、ヨセフが名付けたヘブライ語では、イエスのヘブライ語表記、ヨシュアです。実際には、ヨセフはヨシュアと名付けたのです。クリスマスの父ヨセフは、旧約聖書のアブラハム、イサク、ヤコブ、ヨセフという旧約聖書のヨセフと重なる出来事がいくつもあります。旧約聖書のヨセフは夢を解き明かし、エジプトへ下り、イスラエルの命を助けました。創世記の物語は出エジプト記に引き継がれていきます。出エジプト記のモーセも幼い頃、エジプトの王ファラオから逃れ、王が死んだ後、再び帰還しました。旧約のヨセフと新約のヨセフは重なる出来事が少なくないのです。そのモーセの後継者がヨシュアです。ヨシュアはモーセの任務を完成し、約束の地へ神の民を導きました。ヨシュアとは「主の救い」という意味があると説明することがあります。マタイ福音書は「この子は自分の民を罪から救うからである」と語ります。モーセがヨシュアと共にヘブライ人をエジプトから救い出しましたが、主イエスはユダヤ人だけに限らず、すべての民を救う、真の救い主であることが語られているのです。

ヨシュアなるイエスは、自分の民を罪から救う、すなわちユダヤ人に限定されていないのです。そして、イエスはインマヌエルと呼ばれる、神は我々と共におられる、この大切なことがヨセフに与えられた使命です。ヨセフはイエスと名付けるという彼の人生において最も大きな仕事をなしたのです。ヨセフについてはこの事以外のことは何一つ聖書には記されていません。それは、イエスと名付けたこと以上の栄誉はないのです。神さまに用いられた最も大切な使命に従う事がこの道であったのです。離縁状ではなく、律法を律法

とする真の律法に従う道が主イエスを認知し、主イエスと共に生きる道を誇りを持って開いたのです。

私たちがクリスマスにヨセフの名付けを聞くことは、どのような意味があるのでしょうか。ヨセフが聖霊によって宿ったキリストを認知したことは、私たちが聖霊を信じ、ヨセフに託された神の民の歴史をこの日本において担う使命を与えられていることではないでしょうか。私たちはヨセフと同様、聖霊なる神を信じる信仰をせまられているのです。その聖霊なる神に信仰をもって答える、クリスマスを迎えたいと願います。

私たちは、ヨセフのように大切な判断をせまられることがあると思います。どちらの判断が神に従う事になるのだろうか。聖霊なる神の御業を信じる信仰を養いつつ、クリスマスを迎えたいと願います。神は私たちに神の救いの道を開くために使命を与えることがあります。神が与える使命から逃げるのではなく、従いたいと思います。また、神を忘れ、自分の正しさに酔うのではなく、神の正しさ、神の導きを祈りつつ求めていきたいと願います。祈りましょう。

祈り 天の父なる神さま。待降節の日々、私たちが、あなたに背を向けている時、御言葉によってあなたに立ち返る道を示し、ヨセフのように主イエスへと目を向けさせ、悔い改めさせてください。私たちに与えてくださった信仰を感謝し讃美しつつ告白できるようにお導きください。待降節の日々、救いの確信をお与えください。私たちの讃美の心を豊かにしてください。主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

祈 禱 (各自、自由にお祈りください)

祈禱課題 ウイルスの脅威の中にあって平和と平安をお与えください

洗礼、入会の準備中の兄弟姉妹の上に信仰の確信を与えてください

教会学校、サムエル会の子どもたちのために主の恵みを祈りましょう

医療従事者の健康と使命が主の守りの中にありますように

讃美歌 115番 ああベツレヘムよ

献 金

頌 栄 544

祝 禱

主があなたを祝福し、あなたを守られるように。

主が御顔を向けてあなたを照らし あなたに恵みを与えられるように。

主が御顔をあなたに向けて あなたに平安を賜るように。

主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、

あなたがた一同と共にあるように。

アーメン